

海域の概要

本港は、佐渡西部の両津市に存在する漁港で、フェリーなどが発着する佐渡の表玄関となっています。イカやブリなどの水揚げが盛んで、港内で養殖も行われています。



Specification

諸元

湾口幅：0.35 km

面積：5.63 km²

湾内最大水深：1.1 m

湾口最大水深：1.1 m

閉鎖度指標：6.78

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

新潟県両津港南防波堤、同防波堤先端と同防波堤の延長線と両津港北防波堤との交点を結ぶ線、両津港北防波堤、両津漁港南防波堤、同防波堤先端と両津漁港北防波堤先端を結ぶ線、両津漁港北防波堤及び陸岸により囲まれた海域。

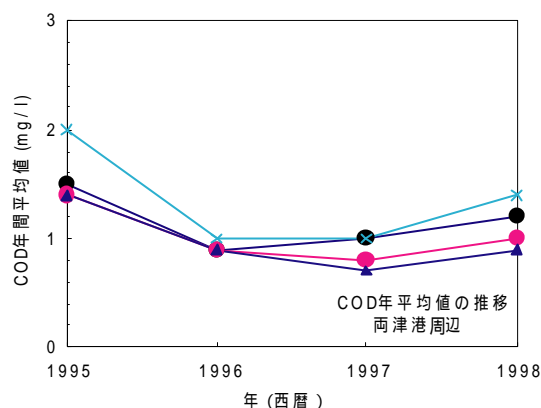


環境

佐渡は周囲を日本海に囲まれ、対馬暖流の影響を強く受けているため、新潟県内の各地に比べて、気温が比較的高くて寒暖の格差が少ない海洋性気候となっています。

水質は、全般に良好な状態にあり、COD 年平均値では、ほぼ 1mg/l 前後で推移しています。

底質は港内では砂礫質ですが、沖合部では岩または礫質となっています。



自然

両津港は、両津湾の湾奥に位置し、背後には加茂湖が控えています。

両津湾の岸沿いにはホンダワラ類を主体とする藻場が分布するほか、港の南東側住吉から野崎にかけての地先にはスガモの藻場が広がっています。

野城にある姫崎灯台は「世界の灯台 100 選」に選ばれており、日本最古の鉄造り灯台で両津湾が一望できます。

沖には順徳上皇の伝説で知られる「竜王岩」と呼ばれる巨岩をみることができます。



姫崎灯台

文化歴史

佐渡の玄関口だった小木や赤泊の港も次第にさびれ、代って両津港が発展するようになりました。

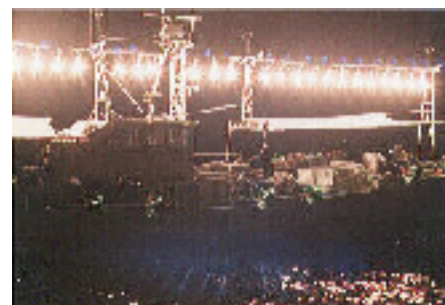
両津港は、安政 5 年 (1858 年) の日米通商条約で開港した新潟港の補助港に指定されてから、佐渡の表玄関として登場し、今や両津航路は佐渡へのメインコースとなっています。

佐渡の文化の歴史は、国分寺をとりまく真野周辺の王朝文化、羽茂や河原田などの城跡をめぐる中世の武家文化、佐渡金山隆盛に流れ込んだ江戸文化、そして北前船などの海運でもたらされた全国各地の文化が一体化して独特の「佐渡文化」を形成し、能・鬼太鼓・おけさなどの遺産を残しています。

産業

両津は水産と工芸品の宝庫です。水産品では、「市の魚」イカ、カキ、ブリ、エビ、カニなどがあり、スケソウダラをブツ切りにして大鍋で煮る「沖汁」は観光客にも人気です。工芸品では、無名委焼・竹細工などが有名で土産品になっています。

両津港は、新潟とジェットフォイルにより約 60 分で結ばれ、加茂湖温泉、住吉温泉、椎崎温泉などの宿泊施設も多く、佐渡観光の拠点となっています。



イカ釣漁業